

# 副町長に

## 中山悟氏が就任

# 教育長に

## 高山佐喜男氏を選任



副町長就任にあたり

副町長 中山 悟

一陣の涼風にさわやかさを感じる季節を迎え、町民の皆さまにおかれましては、お健やかに過ごしていただき、とお慶び申し上げます。

私こと、6月18日の第2回御代田町議会定例会におきまして選任同意を賜り、19日付で副町長を拝命いたしました。

もとより浅学非才でその任ではございませんが、町民の皆さまのお役に立つことができればと考え、お引き受けする決意をいたしました。

さて、日本経済は一時の深刻な状況

を脱却し、企業の景気感にも明るさが見えはじめたというものの、まだきびしい状況下にあります。御代田町でもその影響をうけ、厳しい財政状況の中、超少子高齢化社会への対応、農業、商工業、観光の活性化、生活環境の整備など多くの課題をかかえており、その責任の重さと、課せられた責務の大きさに身の引き締まる思いであります。これらの課題に対し、町長を補佐し、町制定の「自立・協働のまちづくり推進計画」や「第4次長期振興計画」に則して、明るく住み良いまちづくりのために、微力でございますが粉骨砕身して職務を全うする所存でございます。どうか町民の皆さまには、今後とも温かいご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに町民皆さま方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。就任のご挨拶といたします。



教育長就任にあたり

教育長 高山 佐喜男

この度、6月議会でご承認をいただき町長より教育委員に任命され、臨時教育委員会で教育長に選任されました高山佐喜男と申します。どうかよろしくお願い致します。御代田町の教育行政に関わることになりましたが、元より未知の分野でありました。日々新たな気持ちで業務に当たりたいと思っております。

38年間の教師生活の中で、教育を取り巻く環境や意識の変化を見てまいりました。特にここ10年ぐらいの間に、今までの経験では対処出来なような急激な変化が押し寄せて来りました。

このような時期であるからこそ、次代を担う子どもたちの豊かな成長を願う気持ちは、町民の皆さまの共通なものではないでしょうか。御代田町が自立の町として今後更に発展していく上で、教育の果たす役割は大きいでしょう。

今武田信玄の配下の山本勘助を主人公にNHKの大河ドラマが放送されていますが、信玄の考えに「人は石垣、人は城」というものがあり、良く知られています。これはまさしく「人を育てること」が国(町)を発展させることだと言っています。人を育てる基礎をなすのは、家庭教育・家庭のあり方です。誰のせいでもなく親の責務です。

さて御代田町第4次長期振興計画の中に、「自律」と「協働」の町づくりが理念として示されています。この2つの理念は、まさしく教育(家庭)のあるべき方向を示していると思います。

多様化・国際化の進む社会で我々に求められる人間像は、自らを厳しく律し個として立てる「自立した個人」だと思えます。

もう一つの理念の「協働」も、依存や批判だけしているのではなく、自立した個人の力を結集していかなければ本物は生まれてこないと思いません。

そのためにも、未来を託す子どもたちに、大人が自ら手本を示し、この理念の具現化を図りたいものです。家庭の教育力向上に向け、町民の皆さま、関係各位の協働力をお願い致します。

終わりに町民の皆さま方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。就任のご挨拶といたします。

# La vida de HONDURAS 土屋晶子さんからのお便り

スペイン語で「ホンジュラスでの生活」という意味です。 Vol.06

土屋晶子さんは平成18年6月から青年海外協力隊隊員として、中米のホンジュラス共和国で活動しています。



**¡Hola todos! ¿Cómo están? こんにちは、みなさん！お元気ですか？**

早いもので、ホンジュラスに来て1年が経過しました。真っ黒に日焼けし、虫さされに悩まされる日々ですが、病気1つせず、元気に暮らしています。生活、言葉にも慣れ、これまで以上に早く過ぎ去りそうな残り1年をいかに充実させるか、が目標です。

さて今回は、ホンジュラス人の特徴についてお話しします。

## 『道行く女性に求愛?!』ラテンの男は情熱的

### ホンジュラス時間?!

「明日の会議は、8時ちょうどから始めますので、必ず時間通りに集まってください」と言われたら、日本ならもちろん、最低5分前には着席していることと思います。ここでは、例え半年に一度の大切な会議でさえ、開始は9時。2時間待たされることももう日常、この「ホンジュラス時間」に何度惑わされたことでしょうか。分かっている、時間に細かい日本人の切ない性なのか、やはり時間を守ってしまうのです。

バスの出発時間を聞いても、誰も「何時何分」という言い方はしません。ほとんどが「もう出るよ」の一言。そして一時間近く待たされることも…。

ここでは、ほとんどの人が正確な時間を知りません。何人かに時間を尋ねても、10分以上の違いがあり、さらに「この時計が合っている」と答えます。「何分」という単

位が必要ないように感じますし、待つこと、待たせることに対してものすごく寛容です。なので「電車が3分遅れ、大変ご迷惑をお掛けしています」という日本のアナウンスを思い出すと、つい笑ってしまいます。「ラテンの国の人々はストレスが少ない」と言われますが、日本人とホンジュラス人の抱えるストレスの大きさの違いが時間の流れにも表れているのではないのでしょうか。

### 熱すぎる?!ラテンの男たち

ラテンの国々に広く浸透している「ピロポス」という習慣は、道行く女性に男性が声をかけるというもの。特に日本人は珍しいのか、毎日この「ピロポス」攻撃に遭っています。「美人さん」「お人形さん」「愛しているよ」「かわいいね」などレパートリーは非常にさまざま。そこにさらに、ウィンクや投げキッスがおまけについてくること

も。日本人なら生涯に数回も口にしないような愛のセリフを、道端の女性に投げかけているのです。このようなラテンの男たちの、女性への並々ならぬ情熱的な愛には本当に驚かされます。こんな私でも、愛の詩をもらったり(しかも相手は16歳! )、「ボクたちなら言葉の壁も文化の壁も越えられるさ」、「神がボクと君を出会させた」と熱烈な求愛をされたり…と日本では決して得られない数々の貴重な(?)経験をしてみました。

ちなみに、こんな男性が多いからか、嫉妬深い女性が多いように感じます。以前道端で見かけた、2人の女性が傘を振り回し、髪をつかみ合う大ゲンカも、1人の男性を巡るものだったようです。日本の何倍も熱い、そして時には複雑な男女愛が渦巻く様子を、外から楽しんで観察しています。